

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価システム 建築環境総合性能評価システム (2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)愛知県名古屋港区金川町計画 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市港区金川101番1の一部	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2023年10月30日
敷地面積	20,321 m ²	作成者	
建築面積	4,810 m ²	確認日	
延床面積	36,384 m ²	確認者	2024/2/6



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 3.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>□建設 □修繕・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 65%</p> <p>③上記+②以外のオンサイト手法 65%</p> <p>④上記+オフサイト手法 65%</p> <p>0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 4.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 4.1</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 4.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 4.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 4.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>周辺への圧迫軽減を考慮して、外壁は落ち着いた色調に統一し、バルコニー側の手すりガラスの色を不規則に変化をつけるなどデザインに工夫を加えた。</p> <p>また、緑地計画にも力を入れており、道路境界付近にはふんだんに緑を植樹することにより、周囲の環境に溶け込むよう配慮した。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす予定。</p> <p>全面的にF☆☆☆☆を採用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Gbitクラスの高速インターネット設備を完備し機能性の向上を図った。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>常緑樹主体の構成で色とりどりの樹種を組み合わせることにより、周辺の街並みを緑で満たし、尚且つ季節が感じられるような街並形成を意識した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす予定。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>内装材において、ホルムアルデヒドの発散量の少ない接着剤等を採用し、汚染物質含有材料の使用の回避に努めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率が一般的な建物(参照値)と同程度。適切な量の駐車スペース、自転車置場を確保。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)愛知県名古屋市港区金川町計画 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.3	
2. 自然共生	評価点 = 3.8	
3. 循環型社会	評価点 = 3.9	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。